

中濃農林事務所の普及活動状況 令和6年3月25日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■普及成果発表会 ひらく農業・中濃を開催

2月28日、産地振興に向けて関係機関と連携して行う普及指導活動の成果を発表し、他の品目の産地振興につなげることを目的に、普及指導活動成果発表会「ひらく農業・中濃」を、中濃農林事務所主催、中濃農業振興協議会共催で開催し、生産者、関係機関等59名が出席した。

今年度は、関市洞戸地区特産のキウイフルーツについて、JAめぐみのより「ほらどキウイを未来につなごうプロジェクト」を立ち上げ、パートナー企業や関係機関と連携して産地振興を図る事例が発表された。続いて、農業普及課より「「ほらどキウイ」SDGsへの取り組み支援」と題し、国の「グリーンな栽培体系への転換サポート事業」を活用して、土壌診断と有機質肥料による適正施肥および電動式剪定鋏の導入による省力化の取り組みを実証した普及活動事例を発表した。

その後、キウイフルーツでも取り組まれている農福連携の取り組みについて、(株)DAIより事例報告として、農福連携を進めるうえでのポイントについて説明いただいた。

農業普及課では、今後も関係機関との連携を密に行い、地域農業の活性化に向けた活動に取り組んでいく。
(地域支援係)



【普及成果発表】

■岐阜県女性農業経営アドバイザー 総会および退任者講話会

3月12日、GLAMAいきいきネットワーク中濃ブロック総会及び退任者講話会が中濃総合庁舎で開催され、会員13名が出席した。

総会議事は議案どおりに承認され、総会後に今年度末でアドバイザーを退任される3名から、自身の農業経営やアドバイザー活動の取り組みや思い出、今後の活動などを報告する講話会が開催された。

退任されるアドバイザーから会員に向けて、「役員を務めることは大変なこともあるが、勉強になることもたくさんある、尻込みしないで引き受けてほしい」などのエールが送られた。

農業普及課では、アドバイザーの自主的な組織活動を引き続き支援していく。
(地域支援係)



【講話会】

■新規就農者 青年等就農計画の認定検討会議

現在、研修拠点である「JAめぐみの実証圃場」にて研修を行っている1名が、令和6年度に関市での就農を予定しており、農業普及課はこれまで青年等就農計画認定申請書の作成を支援してきた。

これまでもサポート会議が月1回程度開催され、関係機関で研修状況や就農準備状況を共有しており、新規就農予定者は高い就農意欲を持ち、研修にも真面目に取り組んできた。

3月7日、関市役所会議室で、青年等就農計画の認定会議が行われ、主催の関市と関係機関であるJAめぐみの、岐阜県農業共済組合中濃支所、農業普及課が出席して、認定の要件を満たす内容であるかを検討した。

農業普及課では、就農に向けた支援を継続するとともに、就農後もフォローアップ農家として関係機関と連携して重点的な支援を行っていく。
(地域支援係)

■ J Aめぐみの就農塾 夏秋なすコース

3月21日に、J Aめぐみの実証圃場において、就農塾（夏秋なすコース）が開催され、R 5年度受講生4名とR 6年度受講生7名の計11名が出席した。

今回は圃場準備と接ぎ木についての研修で、J Aめぐみの、農業普及課が講師となり、作業のコツや注意事項について説明を行った後、受講生が100本ほどを実際に接ぎ木した。また、前作の圃場を見学しながら、圃場準備の方法について学習した。

農業普及課では、今後も就農塾支援を継続し、受講生のスムーズな新規就農を支援していく。（地域支援係）



【接ぎ木作業】

安心して身近な「ぎふの食」づくり

■水稲 収量・品質向上に向けた栽培研修会

3月12日、J Aめぐみの水田担い手協議会の中濃支部研修会が開催され、中濃管内の水稲担い手の26名が出席した。東海農政局、関市役所からは農業施策について、全農岐阜からは米穀や肥料情勢についての情報提供が行われた。農業普及課からは、令和5年産の水稲栽培における振り返りと、気候に対応した水稲の収量・品質向上に向けた栽培についての研修を行った。出席した参加者らは、高収量・高品質な米生産に向けて今できることを一つでも取り入れようと、熱心に情報収集を行っている様子が見えた。

農業普及課では、今年産の水稲栽培に向けて今後も引き続き情報提供を行っていく。（地域支援係）



【栽培研修会】

■小麦 穂肥増量による収量向上の検証

中濃管内では、農業法人や個人農家等が、小麦「さとのそら」を約230ha栽培している。穂肥施用時期は2月下旬から3月中旬であり、収量向上に向けた栽培技術（穂肥増量）を検証している。

昨年10月29日に播種した関市内のほ場にて、2月26日に穂肥をブロードキャスターで散布した。試験区では慣行区よりも穂肥を窒素0.8kg/10a増量している。

今後は赤かび病の適期防除の実施や適期収穫について、J Aと連携して生産者へ情報提供を行い、良質な小麦生産を支援していく。また、穂肥増量の効果について、収量調査等にて確認していく。（地域支援係）



【追肥作業】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■いちご いちご中間目揃会を開催

中濃いちご生産組合では、3月8日と11日の2回に分けて中間目揃会を開催し、関係者を含む17名が出席した。担当者より、市場情勢や今後の出荷に係る注意事項等が報告された。

産地状況として、現在3番花房が伸びてきているが、出荷が増えてくる時期は3月下旬頃を予想している。今後、気温が高くなってくると過熟果等のクレームが増えてくるため、品質を落とさないよう、収穫後の管理や着色No.の徹底を確認した。

農業普及課では、収穫に集中できる環境を作るため、収穫が忙しくない今の時期に防除の徹底や作業環境を整えることを呼びかけた。



【目揃会】

（地域支援係）

■さつまいも さつまいも生産組合総会・研修会

3月21日に、さつまいも生産組合総会が開催され、8名の生産者が出席した。総会では、令和5年度の事業実績、令和6年度の事業計画、役員改選について承認された。

農業普及課からは、調査研究により明らかとなったコガネムシの飛来数、掘り取り調査の結果や、自家用の栽培向け増殖の留意点、基腐病をはじめとする病害対策等について情報提供を行った。

農業普及課では、今後も定期的な生育調査を行い、組合への支援を継続していく。

(地域支援係)